第1回「これからの千曲川を考える会」を開催しました

■2016年3月13日（日）に「第1回　これからの千曲川を考える会」を上田　道と川の駅　交流センターで開催しました。

■長野県のシンボルである千曲川では、現在、様々な団体が活動していますが、お互いにどのような考えの下で活動を行っているのかについては、十分には共有できていない現状にあります。

■「これからの千曲川を考える会」では、千曲川に関わる団体の活動内容やイメージする千曲川の将来像について考えを共有すると共に、団体間での協働の可能性を検討する最初のステップになることを目的としています。

■当日は、長年、千曲川水系に関わってきた地域の小学校や地域の団体から、それぞれの活動内容や千曲川に対する思いについて発表して頂き、最後に意見交換会を行いました。

1．最初に、主催者であるおとぎの里てらこや部会部会長の高橋大輔（長野大学環境ツーリズム学部教授）から、本日の会の趣旨説明が行われました。

2．最初の報告者は上田市立南小学校の児童会会長と副会長。南小学校でのサケの卵・稚魚飼育と放流会の様子や感想について発表が行われました。

3．次の報告者は上田市立川辺小学校の4年生の皆さんです。アユの稚魚放流会や川遊び体験について自作のパネルを使っての発表でした。

4．高橋さんからの「千曲川での川遊び、楽しかった人！」との質問に、「はい！！」と元気よく手を挙げて答える川辺小の子供たち。

5. 会の後半は、千曲川に関わる団体の方から活動内容についての報告です。最初の報告者は「信州上田千曲川少年団」副会長の竜野秀一さん。千曲川をフィールドに子供たちに千曲川の楽しさや面白さを体験的に学んでもらうことを目的とした様々な活動について報告頂きました。

6. 続いては、身近な水環境を自分たちで測定し、信州の水環境を守る活動を行っている「信州水環境マップ・ネットワーク」事務局の沼田　清さんです。「子どもの頃から水環境を調べることで、自分が大人になった時に川がどんな変化をしたのか感じて欲しい」とのこと。

7. 最後は、NPO法人新潟水辺の会」副代表の加藤　功さんから、ドローンで撮影した千曲川・信濃川の河口から上流までの映像を使って発表頂きました。発表の終わりに、千曲川に関するクイズが行われ、正解した児童には新潟産のイクラやサケの味噌漬けがプレゼントされました。

8. 報告会の後に、短時間ではありましたが意見交換会を行いました。川辺小教諭の片田さんから、千曲川でのアユ放流会や川遊び体験を通じて、子供たちが自然環境だけでなく文化や歴史など様々なことを学ぶことができているとのコメントがありました。

■今回の報告や意見交換会を通じて、千曲川の持つ多様な自然環境や歴史・文化は、地域を学ぶ素材としての利用も含め、今なお私たちの暮らしに様々な形で活かされていると感じました。これは、昔から人の暮らしと深く関わってきた日本で一番長い川である千曲川だからこそ持つポテンシャルだと考えます。

■第1回の会では、団体ごとに千曲川に対する考え方や具体的なアプローチの仕方は異なるものの、「千曲川の自然を守り、次の世代に残していきたい」「子供たちに千曲川の素晴らしさを伝えていきたい」の2つは、お互いに共有できるものであることが確認できました。

■「これからの千曲川を考える会」は、千曲川に関わりを持つ様々な組織や団体が、まずはお互いに知ることをねらいに、これからも定期的に開催していく予定です。

文責：高橋大輔（おとぎの里 てらこや部会 部会長、長野大学環境ツーリズム学部 教授）